

自然教育園

やさしい生態学講座

全6講座

1 2/7(水)

身近な雑草で見る進化の不思議

ふかの ゆうや

深野 祐也 千葉大学大学院 園芸学研究科 准教授



道路の脇に生えている都市の雑草。この雑草たちは、都市という環境に適応して今まさに進化しています。私の講義では、道端の雑草を通して進化のプロセスを学びます。そして進化というレンズを通して雑草を見ることで新しい発見につながることをお伝えしたいと思います。

2 2/8(木)

身近なクモから広がる世界

ばば ゆうき

馬場 友希 農業・食品産業技術総合研究機構 上級研究員



本講座では身近な生き物であるクモの基本的な生態と、他の生物には見られない不思議な習性や特徴についてご紹介します。身近な生き物を知ることで、世界の見え方が変わってくると思います。

3 2/9(金)

タネから考える植物の暮らし方

にしひろ じゅん

西廣 淳 国立環境研究所 気候変動適応センター 副センター長



植物は自分の意思で移動できませんが、種子の散布・休眠・発芽の特性により、生育に適した環境での生育を可能にしています。講座では種子・果実の特性から植物の暮らし方を学び、付き合い方を考えます。

4 2/10(土)

ガン類にまつわる諸問題

もりくち さちこ

森口 紗千子 日本獣医生命科学大学 ポストドクター



ガン類は、かつて日本全国に分布し、農地など人の近くで生活するなじみ深い渡り鳥でした。現在は限られた地域でしか見られなくなりましたが、さまざまな保安全管理上の問題を抱えています。ガン類のくらしと人との関係を解説します。

5 2/11(日)

実は芸達者！？カビの生活史を解き明かす

いたがき

板垣 ひより 埼玉県立川の博物館 学芸員



きのこや酵母とともに「菌類のなかま」であるカビは、私たちに身近な存在であるにもかかわらず、その素顔はあまり知られていません。本講座では、そんなカビのユーモアに富んだ姿形や生態をご紹介します。また、カビと植物との関わり合いに着目して生活史を追った研究事例についてもお話しします。

6 2/12(月)

木が枯れたから虫が喰うのか、喰ったから枯れたのか

いわた りゅうたろう

岩田 隆太郎 日本大学 元教授



樹木が枯れそれから昆虫が出現すると、その穿孔が樹木の枯死の原因として疑われます。しかし「虫が喰ったから木が枯れた」というケースは実際には少なく、「木が枯れたから虫が喰った」というケースの方がむしろ多く見られます。ここでは昆虫の穿孔と樹木の枯死の因果関係を、木質依存性昆虫の遷移を考慮に入れて論じます。

日 時： 令和6年2月7日(水)～12日(月) 各日13:30～15:00

会 場： 国立科学博物館附属自然教育園 講義室

対 象： 一般・大学生

定 員： 各講座 30名

参加費： 無料(入園料は必要)

申込み： WEBにて受付(先着順、定員になり次第締切)
令和6年1月7日(日) 10:00より受付開始

● 自然教育園ホームページのイベント欄より、注意事項をご確認のうえ、お申込みください。

● 都合により中止になる場合があります。

国立科学博物館附属自然教育園

東京都港区白金台5-21-5

TEL.03-3441-7176

